



天平のひろば

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）
〒630-8577 奈良市二条町2-9-1 奈良文化財研究所内

2023年1月発行

85号

☎/Fax 0742-34-7713

e-mail : npoheijyou@yahoo.co.jp
http://www.heijyonet.nara.jp

平城宮跡を最適な空間に！

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素より会員並びに関係者の皆様におかれましては、NPO 平城宮跡サポートネットワークの運営に、ご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。



2001年に本会は「平城宮跡の環境を守り（中略）宮跡を訪れる人々に最適な空間を提供すること」を目的に設立されました。以来、本年秋には22年を迎え、丁度、大学を卒業し社会に羽ばたく年齢

に達します。昨年、奈文研は創立70周年、平城宮跡史跡指定100周年となり、新たな段階へと進みゆくとお聞きしています。そこで、私たちNPO平城宮跡も奈文研のご指導を得つつ、会員の皆様とともに新時代に即した活動を展開すべきではないかと考えております。まず冒頭の目的を再確認したうえで原点に立ち帰り、クリーン活動の一層の充実と、特に、自然景観の保全に力を入れていきたいと思ひます。そのために清掃美化・樹木剪定活動に加え、害虫被害から桜を監視点検する「桜みまもり隊」を結成すること。また優れた自然環境を持つ平城宮跡を幅広く広報するため「平城宮跡自然マップ」や「平城宮八景」の選定など広報活動に取り組んでいきます。次に文化教育活動面として、「かりうち」の普及活動を更に進めること。第二に、公園ガイド活動は新たに五期生を迎え、コロナ・熱中症・寒中対策を講じつつ、着実に取り組むこと。第三に、資料館講堂といざない館における歴史講座を年15回開催し、平城宮跡ファンを醸成しガイドのスキルアップに貢献していく所存です。

本年も皆さまのご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

（鈴木浩 NPO 平城宮跡理事長）

平城宮跡史跡指定 100 周年記念 ツアーガイド

12月10日平城宮跡史跡指定100周年記念ツアーを奈文研、管理センター、NPO平城宮跡の三者共催で実施。最初にいざない館で奈文研、岩戸晶子室長の企画展示説明後、42名の参加者は5班に分かれ、朱雀門～二条大路～式部省～平城宮跡保存記念碑、史跡平城宮址石碑～東区朝堂院～第二次大極殿跡～東方基幹排水路SD2700～造酒司跡～銀杏の記念樹まで、管理センターの協力のもと奈文研の内田和伸部長、高橋知奈津主任研究員、下山千尋（AF）の現地解説に参加者は、“普段聞けない話”で大満足と感動していました。

（文化・ガイド部会）



解説の内田和伸文化遺産部長（平城宮跡保存記念碑）



いざない館で企画展示の解説（岩戸晶子室長）

新規会員募集説明会（いざない館）

当法人は、令和4年11月25日新規会員募集説明会を開催、環境保全事業6名、文化・ガイド事業13名の参加者があり、説明後の活動内容の質疑に鈴木浩理事長、仁木美津子副理事長（事務局長）たちは丁寧に説明していました。（編集部）



説明する鈴木浩理事長

【特集】

史跡指定 100 周年、奈文研創立 70 周年、 NPO 平城宮跡 20 周年「記念座談会」



記念座談会の集合写真(奈文研)

12月6日に元平佳作研究支援推進部長、内田和伸文化遺産部長、加藤真二企画調整部長、NPO 平城宮跡鈴木浩理事長、宮繁壽夫元理事長、大山達夫広報部長(司会)が出席し。これまでの平城宮跡の歴史を振り返り、激動 100 年の平城宮跡を「過去、現在、未来」のテーマで座談会を開催しました。

＜発言要旨は、以下のとおり＞

内田和伸文化遺産部長：奈文研が平城宮跡の発掘調



査だけでなく整備事業も直接行った時期があり、今や朱雀門や東院庭園はじめ、大極殿や大極門の復原・整備などで市民の皆さまには発掘成果の“見える化”が

進み、価値がわかり易くなりました。平城宮跡の発掘調査は現在約 40%の発掘を終えたところですが、未発掘の史跡指定前には、保存会が東区朝堂院に石組溝を巡らせたり、史跡指定後は奈良県が内務省の交付金で史跡標柱などを整備したりして、遺跡の価値を見せることが課題でした。長い年月で平城宮跡は相当に変わりましたが、基本的には昭和 53 年の「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想」に基づき、様々な整備などが進められています。平城宮跡は発掘成果の表現だけでなく、今日整備した水辺に水生植物やそこに集まる野鳥、水辺の生態系、ビオトープなどが見られ、ツバメのねぐら入りが有名になり、緑地としての価値が増してきています。また、奈文研では、萱の文化財建物修理への利用と草刈の省力化などを検討しています。これからの平城宮跡については調査・研究・普及、保存と活用、管理運営になど、皆様と探っていきたいと考えています。

加藤真二企画調整部長：史跡指定 100 周年、奈文研



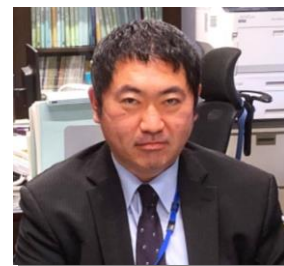
70 周年の最初の展示は「未来につなぐ平城宮跡—保存運動のあけぼの—」。保存運動が地元の人々から始まり、史跡指定の先鞭となったことを知っていただける展示

でした。また「地下の正倉院展—平城木簡年代記〔クロニクル〕—」木簡を展示する地下の正倉院展は、平城宮跡で初めて出土した木簡から、一番最近出土した木簡を網羅し、奈文研の木簡研究をたどることのできる内容でした。最後に「のこった奇跡のこした軌跡—未来につなぐ平城宮跡—」は戦後の奈文研が、中心となって行ってきた平城宮跡の発掘調査とその成果、奈文研を含む様々な機関が、協働して行っている整備や活用について展示しています。そして、奈文研が発掘調査だけではなく、様々な分野の研究室から成り立つ、総合的な文化財研究機関として活動していることも紹介しました。

平城宮跡公式 Twitter、ニコニコ美術館など新しい媒体を用い奈文研や平城宮の広報を試み、いずれも想像以上の反響をいただきました。文化財の意義や面白さを市民の皆さまに伝え、研究者と一般の方との橋渡し役として、今年も様々な仕掛けを考えていくつもりです。

また解説ボランティアだけではなく NPO 平城宮跡の支援も必要です。発掘した研究成果の活用“かりうち”などを通して、市民の理解を深めようとしています。

元平佳作研究支援推進部長：1952 年文化財の宝庫、奈良の地で多彩な研究者が、文化財の総合研究を行い、その成果を文化財の保護に役立てることを目的



に奈文研は設置されました。平城宮跡や飛鳥、藤原京の保存問題を契機に組織も充実、2018 年に新庁舎も完成しました。

2020 年に文化財機構本部内部署として、文化財防災センターが所内に開設されました。アソシエイトフェローや有期雇用を含めると 220 名を超える組織となっています。この 11 月 30 日、創立 70 周年記念式典で奈文研の「MVS2022」

として取りまとめ、健全な収支や組織体制に基づくアクションプランを策定、各研究部、センターから9件の事業報告なども行いました。

平城宮跡を取り巻く環境を市民にご理解いただくため、NPO 平城宮跡とは各種課題の解決やより良いサービスを提供する共通認識を図っています。市民と行政を繋ぐパイプ役は重要であり、高い専門性を活かした活動も期待されます。NPO 平城宮跡との今後の課題は、高齢化が顕著となっている中、次世代の若者が興味関心を持ち中長期的な活動に携わって継承、発展することが重要です。個々人で限界のあることや行政だけで成し遂げられないことをNPO 平城宮跡と協働することにより課題解決に取り組んでまいりたいと思います。

NPO 平城宮跡宮繁壽夫元理事長：20年前にNPO 平城宮跡を設立、様々な展開をしてきましたが、20年間の歩みで思い出深いものは、平城遷都1300年祭、全国育樹祭、東日本文化財修復支援事業の全国短歌会、秋田県の国民文化祭で平城宮跡の紹介を行ったことなどがあります。また安全・安心連絡協議会での平城宮跡みまもり隊の巡回などがあります。このような活動で2013年には、

「永年にわたり最適な空間を提供、文化財保護に寄与、多大な貢献をした」ことで全国唯一団体の文化庁長官表彰を受章しました。



これからも財政基盤、若者との連携強化、行政との連携協力、NPO 平城宮跡の若返りなどに継続した取り組みを展開したいと思います。

NPO 平城宮跡鈴木浩理事長：NPO 平城宮跡サポートネットワークは2001年7月平城宮跡の環境を守り、教育文化や広報活動を通じて宮跡を訪れる人々に最適な空間を提供することを目的に設立。当初、会員は80名で発足し現在は、5部会の体制で、会員数も約140名となっています。平城宮跡の一部が歴史公園となり7年前に国交省が第一次大極殿復原情報館を開館、私たちが定点ガイド、更に4年半前からはいざない館、本年から大極門とガイド活動は100名となりました。

“奈良時代を今に感じる”をコンセプトに「平城京歴史講座」を開設、奈文研のご指導の下、檀考研、奈良市埋文、元興寺、奈良博、正倉院事務所も参加、4年間、毎月開催し早、30回も会を重ねました。



環境面では平城宮跡をクリーンにするだけでなく、景観保護の面も重要との思いから、昨年「緑の保全部会」を設置し、従来の活動に加え宮跡内の松の木や桜の巡視活動も行っています。

最後に、平城宮跡の防火・防犯啓発のため、12年前、奈文研始め警察・消防も参加した11団体で「安全・安心連絡協議会」を立上げ、平城宮跡みまもり隊を編成、今やすっかり定着してきました。

昨年11月6日には創立20周年記念式典を行い、奈文研本中眞所長から活動に対する感謝状を頂戴しました。さらに創立20周年を機に「天平のひろば」合本版を発刊しました。

2022年は奈文研創立70周年、平城宮跡史跡指定100周年という佳節を迎え、これに呼応したテーマで歴史講座や記念ツアーガイドを企画しました。これは、奈文研・管理センター・NPO 平城宮跡の共催イベントとなりました。今後もこうした枠組み事業にも積極的に参加させていただく所存です。

内田部長の話にもありましたが今後、大極殿院周辺の復原建物の建設が進んでいきます。豊かな自然環境の中に復原建物が溶け込み、文豪・堀辰雄が述べたように、いわば第二の自然景観が創出されていけたらと思います。平城宮跡は多くの市民が散策に訪れ心む場所となるよう、環境の保全に一層力を入れていきたいと決意しています。

また、5月21日全国「みどりの愛護」のつどいは、秋篠宮殿下・妃殿下ご臨席のもとで、国土交通大臣表彰を受賞いたしました。

さらに飛鳥・藤原京が世界文化遺産に登録されれば、当会や飛鳥里山クラブなどと連携し飛鳥・平城宮跡を愛する、全国規模のファンクラブのネットワークが形成できないかと夢見ています。

(編集部)

大阪・奈良歴史街道リレーウォーク「長屋王の変」を巡るツアー

11月6日96名の参加で開催。大和西大寺駅でスタッフ22名が迎え11班が平城宮佐伯門→大極門→朱雀門→いざない館第4展示室を見学、昼食後、壬生門→建部門→東院庭園→藤原麻呂邸跡→長屋王邸跡の行程。汗ばむほどの晴天に恵まれ参加者は、ガイドの説明に感嘆し楽しく巡りました。



NPO 平城宮跡のガイドたち(大和西大寺駅北口)

第2回かりうち大会(朱雀門ひろば)

11月26日奈文研、管理センター、NPO 平城宮跡3者が、古代の盤上遊戯かりうちを16組の事前申し込みで開催。「かり」棒を投げて盤上の駒を進めるゲームの参加者はドキドキしたと好評。バランス絶妙なゲームに当会スタッフは、奈良時代の衣装で協力しました。



かりうちゲームの様子



NPO 平城宮跡のスタッフ(管理センター撮影)

天平祭 2022 秋「みつきうまし祭」 古代瓦拓本づくり/かりうちゲーム

10月22日、23日朱雀門ひろばの天平祭に古代瓦の拓本づくり34名、かりうち約100名の参加がありました。15名の当会スタッフは、朱雀門ひろばで、体験者の多さに汗だくになりながら奮闘しました。
(文化・ガイド部会)

万葉集新勉強会

平城宮跡解説ボランティア事業が始まった頃、NPO 会員の有志から解説に役立つ知識を広めたいとの要望が起こり、奈文研のご支援の下に「万葉集勉強会」が発足したのは平成15年(2003)10月でした。参加者は36名で全員が交互に『万葉集』の巻1-1から全4516首を解説する方式が採られました。初心者には大変難しい要求でしたが皆さん頑張って平成30年(2018)1月に読了しました(当時の勉強会の状況の一端は『天平のひろば』30、41、59、63、64、71号をご参照下さい)。ホッとするまもなく、折角『万葉集』に関する色々な知識を得たので、もう少し個人的な意見も取り入れて発表する機会が欲しいとの要望が出て、「万葉集新勉強会」は16名の参加で平成30年(2018)2月に発足しました。今回は各人が発表希望テーマを提出して一度に2名ずつ発表する方式としました。各人がどのような点に関心を持っているか、どのような解釈が可能かなど興味津々でした。個人的に印象に残るテーマとしては、「大伴旅人の歌と漢籍」、「旅人の初出・望郷・辞世歌」、「奈良の都を詠める歌」、「近江の海」など、シリーズの解説では「大伴家持の越中秀歌と三賦」、「山上憶良の哀しみの歌」などでした。コロナ禍やメンバーの高齢化もあり31回目には出席者も7名となり、残念ながら令和4年(2022)10月を以て「万葉集新勉強会」を終了することになりました。延べ19年に亘って参加者の皆さんご苦労さまでした。お世話になりました奈文研およびNPO 平城宮跡ネットワークの皆様は厚くお礼を申し上げます。

最後に私達が選んだ奈良に寄せる一首は

「あをによし 奈良の都に たなびける
天の白雲 見れど飽かぬかも」



歌碑(奈良市庁舎正面内庭)

(遣新羅使誦詠古歌 巻15
—3602)

(万葉集新勉強会世話人 宮本 靖)

平城宮跡歴史文化講座(次回)

1月21日:市 大樹(大阪大学大学院人文学研究科教授)
「奈良時代の都鄙間交通」

好評 平城京 歴史講座

三野卓也さん（宮内庁正倉院事務所保存課調査室研究員）が10月8日89名を前に「正倉院文書を『読む』」を講演。正倉院は、東大寺大仏殿の北北西300mにある。北倉と南倉は三角材を井桁に組み上げた校倉造、中倉は板倉造で、世界



文化遺産に登録。宝物が1200年も保存されたのはいくつか理由があり、勅封（天皇の命）で管理され高燥、曝涼と点検が行われその都度記録を付け、さらに正倉に唐櫃と二重構造で保存されている。今は空調設備が整い環境が守られ東・西の宝庫に納められている。

正倉院文書は、戸籍や計帳といった律令国家が人民支配のために作成した文書をリサイクルして、記されている。戸籍は六年に一度、里ごとに中央に送られ班田収受に、計帳は租税や労役の基本台帳となっている。写経所の経巻きには鑑真が良弁に華嚴經、大般若經、大品經を貸してほしいとの書状の筆跡や、工人、官人の「造石山院所雑様手実」の筆跡もあり、それを観察し文書の作成者を特定する。つまり正倉院文書を読むことで、奈良時代の人々の仕事が理解できる。また、位相を変えることで当時の律令国家の実態に近づくことができる。この文書は誰が書いたのかを特定する見方を語った。（編集部）

小田裕樹さん（奈文研主任研究員）が11月12日65名を前に「盤上遊戯かりうちの復元とその意義」について講演。1989年



平城京二条大路から出土した土師器の内面に円形の列点記号が刻されているものが発見された。同様の記号が秋田城跡を始め全国の官衙関連遺跡から出土していることに気づき研究。この記号は現代韓国のユンノリ（棒遊び）というゲームの盤面に酷似しており、飛鳥、奈良時代には禁止令も出されるほど、役人の間で盛んに行われた盤上ゲーム「かりうち」の記号にも繋がっていた。発掘された土師器の列点記号は、円を描きそれを6分割する放射状の列点があった。また岩手県では4分割

の列点が見つかっており平城宮の6分割と異なる。かりうちは平安時代の辞書「和名類聚抄」で「中国名：樗模（ちよぼ）」の項目に「和名：加利宇知」という遊びと紹介されている。万葉集では「切木四」「折木四」を「かり」と読ませる言葉あそびも登場、「かり」と呼ばれる四本の木の棒を使うあそびがあったのではと考えられていた。平安時代に編まれた、「令義解」では、「かりうち」はすごろくとともに賭博として禁止されていることが書かれている。（編集部）

の列点が見つかっており平城宮の6分割と異なる。かりうちは平安時代の辞書「和名類聚抄」で「中国名：樗模（ちよぼ）」の項目に「和名：加利宇知」という遊びと紹介されている。万葉集では「切木四」「折木四」を「かり」と読ませる言葉あそびも登場、「かり」と呼ばれる四本の木の棒を使うあそびがあったのではと考えられていた。平安時代に編まれた、「令義解」では、「かりうち」はすごろくとともに賭博として禁止されていることが書かれている。（編集部）

（編集部）

内田和伸さん（奈文研文化遺産部長）が12月10日84名を前に「史跡指定100周年-特別史跡平城宮跡の保存と整備」と題し講演。



明治34年には大極殿跡に標木を建設、平城神宮建設会が設立された。これら保存運動に尽力したのが棚田嘉十郎で、華族、学者、政治家を巻き込み寄付金を募り、史跡の保存と記念碑の建設を目指した。明治43年には平城遷都1200年祭を実施、明治44年には大極殿跡保存会を設立、寄付金をもって周辺の水田を購入、大正11年に史跡指定され、朝堂院前に「平城宮跡保存記念碑」が完成、史跡指定地の四周を明示する14か所にイチョウの植栽を行った。

昭和45年より奈良県、文化庁と共に奈文研が本格的な発掘調査、朱雀門、東院庭園、大極殿などを復元した。

平成20年国営公園化が決まり、歴史公園として一層の充実が図られている。令和4年10月12日に史跡指定百年を迎えることになった。発掘調査で解った古代の遊戯「かりうち」の復活などにも力を入れている。（編集部）

次回の平城京歴史講座(いざない館)

1月14日：浜本雄司（奈良県平城宮跡事業推進室主幹）「平城宮跡歴史公園（県エリア）整備について」とガイド研修会を開催。「奈文研李暉（AF）、飛鳥歴史公園出口義治課長」など、東楼で現地説明。

2月11日：伊藤旭人（奈良国立博物館工芸考古研究室研究員）「正倉院の仏具を解明する」



1978 年愛知県生まれ。
2003 年大阪大学大学院
文学研究科修士課程修
了、2005 年 4 月奈文研
に就職し、平城地区と

飛鳥・藤原地区での経験を経て、再び平城地区で勤務しています。

和田さんは、日本列島の国家形成過程で中央政権が導入した祭祀の様相を分析、政権と祭祀のあり方の解明を目的に研究を進めています。現在は「古墳祭祀」と「律令的祭祀」の比較研究を目指し、古墳時代の埴輪、古代の木製祭祀具を主な分析対象とし「祭祀による政治戦略」の解明に取り組んでいるところです。

考古第一研究室では、遺跡から出土した遺物のうち、木製品、金属製品、石製品などの調査研究を行っています。平城宮跡では木簡などとともに多量の木製品、金属製品や銭貨などが出土しています。これらの遺物の中には、正倉院宝物に類似しているものもあり、貴重なものばかりです。土器や瓦よりも脆弱なものも多く、保存修復科学研究室や年代学研究室と連携しながら、調査研究と保存管理に取り組んでいます。また、微細な種実も取り扱っており、古環境を復元するために、研究室に土ごと持ちかえて環境考古学研究室と協同で詳しく調査することもあります。現在は、平城宮内裏東方にある南北大溝の調査で持ち帰った大量の土を洗浄し、そこに含まれる木製品や種実を分別する作業が日々続いています。また「平城京に住まう人々-貴族と役人の生活」では、皇族 20 人、貴族 120 人（5 位以上）、下級役人 600 人、采女、内侍司など様々な人々 10 万人が住んでいて平城京の土地利用状況から、居住可能面積、宅地面積、一家族の人数などを右京計帳（正倉院文書）などから推計、整理しました。

「NPO 平城宮跡とは機会があれば講演などの協力をしたい」のお言葉をいただきました。（編集部）

平城宮跡を“楽しむ”人たち

平城宮跡をきれいにしたいと、長年の活動が続け、平城宮跡は見違えるようにきれいになりました。また平城宮跡では「桜みもり隊」が約 120 本の桜の木の害虫観察を行っています。（緑の保全部会）



内裏井戸跡の草取り作業



生垣の刈込み作業

平城宮跡の清掃活動や、みもり隊は宮跡を訪れる人々に、最適な空間を提供する活動を継続します。毎年「春のクリーン大会」は、奈文研を中心に実行委員会で見直しの検討中です。皆様のご意見や要望を大いに歓迎しています。（環境保全事業）

新規会員の紹介/募集

新規会員の紹介 (12 月 31 日現在) 50 音順。
石川一雄さん、富野美佐子さん、中嶋 豊さん、西前明美さん、藤岡秀男さん、藤永泰雄さん、松田景子さん、村岡廣胤さん、村田伸宏さん、森川民雄さん、渡部由紀子さんの 11 名が入会しました。

新規会員の募集

平城宮跡で楽しい時間を過ごしてみませんか。

☎ / Fax 0742-34-7713 にご連絡ください。

編集後記

あけましておめでとうございます。

今年も好奇心旺盛に新しい出会いと飛躍の年を目指します。（萱鼠）